

澁川一流柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法

貫汪館会報

第74号

発行 貫汪館
発行日 平成二十五年三月二十八日
発行人 森本邦生
広島県廿日市市宮内一四八〇

平成24年度

「城下町広島島の歴史講座十講」

平成25年1月19日(土) 広島市東区総合福祉センターにおいて、平成24年度「城下町広島島の歴史講座十講」第8講が開催されました。今回は、森本先生が講師として招かれ、「広島藩の武術」(貫心流・難波一甫流・渋川一流を中心として)のタイトルで講演されました。講演内容は、はじめに一般的な武術のお話として続いて広島藩における武術諸流についての説明、最後に貫心流・難波一甫流・澁川一流の詳細をお話しされました。



講座に参加されていたのは年配の方が多かったように思いますが、みなさん興味深そうにお話を聞いておられました。公演では、森本先生の解説に合わせ、竹本康祐、竹本治恵、片岡潤一、竹林哲也の4名が、会場前部と中央部の二か所に分かれ、難波一甫流の半棒術、澁川一流の十手、分童、居合等の形を披露させていただきました。広い会場でしたが、二か所で演武を実施しましたので、みなさんに身近に見ていただけたものと思います。



参加者の皆さんは、柔術を見られる機会はほとんどないと思いますが、真剣に見ていただき、我々もよい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

(文責：竹本康祐)

第36回日本古武道演武大会

平成25年2月10日(日) 兵庫県立武道館において、第36回日本古武道演武大会(主催：財団法人日本武道館、日本古武道協会、共催：兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県体育協会)が開催されました。貫汪館からは、森本先生、竹本康祐、竹本治恵、片岡潤一、竹林哲也の5名が参加し、澁川一流柔術の演武を行いました。

大会前日には、ホテル日航姫路において、主催者、大会関係者、各流派の演武者等が参加し、盛大なレセプションが開催され、他流派の方々とも交流させていただきました。

演武大会は、三藤芳生大会実行委員長の開会宣言で始まり、主催者挨拶として、松永光 日本武道館会長・日本古武道協会会長から「第36回日本古武道演武大会の開催に当たり、全国から多数の流派が参加し盛大に開催できることを感謝する。この頃、安部総理が日本を取り戻すと話されているが、これは日本精神を取り戻すことである。日本精神で最も大切なのは武道精神であり、その武道の源流をなすものが古武道である。今後とも古武道精神を奮い立たせるとともに広く国民に知らしめ、地域のため、国の発展のため努力いただきたい。」との挨拶があり、続いて白井日出男日本武道館理事長・日本古武道協会理事長から「第36回日本古武道演武大会の開催に当たり全国から集まった先生方及び来会いただいた方々にお礼を申し上げる。世界文化遺産、国宝である姫路城を擁する姫路で演武大会が開催できる事を嬉しく思う。本大会は、昭和53年に古武道の

保存、継承を目的に開催され、爾来36回を数える。古武道は、現代武道の源流をなすもので、鍛錬の成果から、よりよき人格形成をするため「道」を突き詰める姿が多くの方々に影響を与えていると思う。演武者は、日頃の稽古の奥義を来会の方々に披露し、評価いただきたい。」との挨拶がありました。その後、大会顧問井戸俊三兵庫県知事の代理として、吉本知之兵庫県副知事より歓迎のお言葉をいただき演武が開始されました。

演武は、小笠原流弓馬術から開始し、陽流砲術まで34の流派が演武を行いました。今大会は、出番を待ったため、他流派の演武は控室モニターでの見学となりました。兵庫県立武道館は立派な施設で、また、観客の方にも静かに見学いただき、心を落ち着けて演武することができました。その後演武は、各流派とも概ね予定されていた時間に演武が終了し、最後に山田重夫大会実行副委員長の開会宣言で大会を終了しました。

(文責：竹本康祐)



今回大会に参加された方の所感を次のとおり掲載します。

第36回日本古武道演武大会に参加して

演武大会の前日に、森本先生をはじめ門弟一同で会場となる兵庫県立体育館の下見をしました。規模が大きく設備が整った立派な武道館で、広島にもこのような公共の武道館があればと羨ましく思いました。また、今回の姫路での開催に当たり、地元関係者の皆様には盛大な歓待を受け、身に余る光栄なことと感じるとともに誇りにも思いました。

大会当日は、澁川一流は7番目の演武だったので、残念ながら午前中(第1部)で演武した流派の見学はできませんでした。見学した第2部では、各流派ともその流派が持つ独自の空気、間などの特徴がとても勉強になりました。自分の演武を省みようと、床が滑るのが気になり、足元に意識が集中した結果、焦っていたものの稽古どおり動くことができました。これから、些細なことにも動じない平常心を養うことが重要であると感じました。そのためには何をしなければならぬかを常に意識し、稽古だけでなく日常生活においても努力しようと思いません。

(文責：竹本治恵)

平成25年2月10日(日) 第36回日本古武道演武大会で演武させていただきましたために姫路市の兵庫県立武道館へ行ってまいりました。当日は、34流派の方々が日頃の稽古の成果を十分に、すばらしく特色ある演武をされていました。どの流派もしっかりと稽古をされ、稽古に対する心構えや稽古量の多さを感じることができた演武内容でした。

他流派の演武を拝見させて頂く事は良い稽古になります。それは、動きの本質を観る目を養うことが出来るからです。今回も多くのすばらしい演武を

拝見させて頂き、自分自身の至らないところやダメなところが分かり、今後の稽古で何をすべきか見つけることが出来ました。

さて、私の今回の演武ですが、御膳捕の中から3本を演武いたしました。特に今回は焦りの目立つ演武内容であったと反省しております。その原因は、周囲の状況・環境に対応できなかったことにあると思います。しかし、どのような状況でもその状況に合った動きが出来なければならぬと考えます。そのためには落ち着く事が重要で、今回あらためて深い呼吸を心がける事が大切であると認識いたしました。これを今後の稽古の中心とし、そして日常生活に生かそうと思います。

最後に、この様な大きな演武会は、道場以外の方々の動きを見る事で大変稽古になります。演武での動き、それ以外での動きを学ぶ事が出来ます。自分がどうあるべきかを学ぶ良い機会ですので、多くの方に参加して頂けたらと思います。そのためには、少しでも稽古量を増やし、工夫して頂くよう宜しくお願いいたします。

(文責：片岡潤一)



私が日本古武道演武大会に出させていたくのは、今大会で3回目となります。これまで参加させていた過去の2大会は、いずれも日本武道館での開催でした。この度の演武大会の開催地姫路では、日本武道館とはまた違った雰囲気を感じる事ができました。県外での演武経験の浅い私には、とても良い経験をさせていただくことができました。兵庫県立武道館は大変立派な建物で演武会場も充実しており、このような施設が広島にもあればどれだけ広島の武道が活性化するだろうと羨ましく感じました。

この度の演武大会で私が感じたのは、どの流派も十分な稽古に裏付けされた安定感でした。どのようなコンディションにおいても充実した気迫をもって全てを出しきらんと演武をされていることに深く感動いたしました。この度の自分自身の演武を振り返り、残ったのは不満と後悔です。それは、すべてを出しきるといふ気迫に欠けていたからだと思います。今後この反省を生かし、一日一日を稽古と心得て努めていきたいと思えます。

(文責：竹林哲也)

貫注館居合講習会(三月)

平成25年3月17日(日)、前日までの寒さが少し和らいだ気候の中、廿日市市柿の浦集会所にて貫注館主催の居合講習会が行われました。今回も、横浜、名古屋、大阪、久留米など遠方から多くの方々に参加頂きました。

今回の講習会では、無雙神傳英信流抜刀兵法の大小詰および大小立詰、濫川一流柔術の御膳捕、大石神影流の試合口、難波一甫流の半棒術と、多くの形を稽古しました。今回の講習で、全ての共通要素である、緩む事と臍下を中心に身体を遣う事の重要性を改めて認識しました。大小詰は、座った状態で相手を制する形ですが、動きが少なく分、少しでも力んで身体を固めてしまえば、技がまったく利かなくなりかえって身体を小さく固めてしまうことが多くありました。森本先生にアドバイスをいただきました。また、他の方の形を参考に、深く呼吸をして心を鎮め、できる限り相手の動きを感じることに意識を集中させ、動きを改善するように努めました。大小立詰では立った状態で技をかけるので、足で踏ん張らない事を注意しました。大小詰に比べると、力んで相手を投げたことが多く、立った状態でも緩んでないことがわかりました。御膳捕は、大小詰同様、座った状態での身体の遣い方が出来ておらず、ひとつひとつの動きに角ができ、柔らかな動きには至らなかつたように思います。終盤では大腿の裏が強張っているのを感じ、座った状態でも足を使っていることに気付きました。最後に、大石神影流の試合口と難波一甫流の半棒術を稽古しました。試合口では形の手順を追ってしまい、その結果、動きに区切りが付いて生きた剣術とはなりません。しかし、他の形と同様、相手の動きを意識することで、少し動きの角を取ることができたように思います。

特に半棒に関しては、形の最後の打ち込む際に、上半身の力みについて以前から指摘されていましたが、なかなかおすことができず、腕力だけで叩きつけてばかりいました。しかし、今回の講習会の最後に稽古したためか、いつもより身体全体で、重く、かつ、柔らかく打ち込めた感覚がありました。今回、上達を感じられたのは、この半棒の一振りだけでしたが、今までできなかったことが講習会を通して少しでもできるようになった事に意義を感じました。また、身体で意識し続けることが技の向上に繋がることがはつきりとわかりました。今後は、普段の稽古や日常生活においても、柔らかい身体意識を絶やさぬよう励みたいと思えます。

(文責：西川 朋樹)



昇級者の紹介

二級 向井 薫子

(平成二十四年十二月十五日)

子供の審査要領では、学年により取得できる級の上限を定めていますが、向井さんは稽古の出席率が高く、かつ、上達著しく子供の形の目録をすべて終了しました。そのため、今回特例として上限を超える二級を受審し昇級しました。向井さんの稽古に臨む態度はもろろんのこと、柔らかく繊細な動き等大人の方も大いに見習っていただきたいと思います。

平成25年度行事予定

(4月～10月)

4月7日(日) 広島護国神社 奉納演武

5月4日(土) 京都下鴨神社 奉納演武

(下鴨神社主催・日本古武道振興会共催)

5月5日(日) 京都白峯神宮 奉納演武

(白峯神宮主催・日本古武道振興会共催)

6月29日(土) 昇級審査

7月6日(土)～7日(日) 合宿 (国立三瓶青少年交流の家)

9月3日(火)～5日(木)

日本武道学会第46回大会 (筑波大学)